

企画展で見よう！「江上式星座投影装置」

6月29日(日)まで、展示場1階で企画展「プラネタリウム100年 ―プラネタリウムの過去・現在・未来―」を開催中です。2023年から続いているプラネタリウム100周年記念事業も今年でフィナーレを迎えますが、本企画展もその一つの事業として開催しています。初公開の資料もありますので、ぜひご覧ください。

さて、企画展の注目展示の一つが、「江上式星座投影装置」です。これは、京都で教職に携わっていた江上賢三氏(1918～1997)が開発した独自の投影機で、大きな平面スクリーンに半円形の星空を映す方式を採用しています。

江上氏は「幻灯機」と名付けた投影機を1942年に発表したのを皮切りに製作を進め、1948年に「江上式星座投影装置」を開発します。星空に星座絵や風景を重ねて映すことができ、日周運動も表現できます。さらに、平面スクリーンに映す方式ですから、教室や講堂などドーム天井のない場所でも投影できるのが特徴で、江上氏はこの装置を車で運んで学校など各所で実演し、モバイルプラネタリウムの先駆的な活動をしました。そして完成後も絶えず改良を重ね、1950年には特許を取得し、その後(株)島津製作所から理科教材として発売されて全国に普及し、理科教育の発展に貢献しました。

企画展では、江上明様と京都市青少年科学センター様のご協力を受けて、1942年に発表した「幻灯機」と、島津製の投影機を改良した自作投影装置4号機の2台を特別に展示することができました。江上賢三氏は、電気科学館のプラネタリウムを見て影響を受け、安価で手軽に星空の学習を体験できる投影機を開発しようと考えられたとのこと。様々な工夫が凝らされた江上式星座投影装置を、この機会にぜひご覧ください。

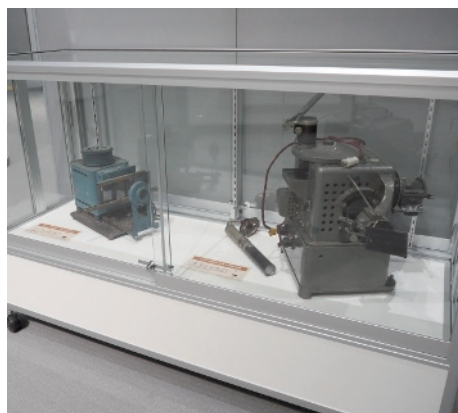


写真:展示中の江上式投影機。左が「幻灯機」、右が自作第4号機です。

嘉数 次人(科学館学芸員)